



理工連携特別講演会

開催日：2014年11月26日（水曜日）

開催時間：16:20-17:50（講演） & 17:50-18:20（質疑応答）

開催場所：首都大学東京 12号館106号室

講師：石井志保子氏（東京大学・数理科学研究科）

講演題目：弧空間とその応用

——Nash問題顛末記ともうひとつの流れ——

講演概要

講演概略：Arc（弧）の概念はNewton の頃に既に存在していたようだが多様体のarcs全体の集合を moduli 空間ととらえたのはJohn Forbes Nash が初めである。これが arc space である。1968年に書かれたpreprint でNash はいわゆる“Nash 問題” を提起した。この問題が最近最終的な解決を見たのでそれを紹介する。一方弧空間がもたらしたものは、Nash 問題だけではなかった。弧空間によって、双有理幾何学的な不変量が記述され代数多様体の特異点の世界に新たな視点を導入することができることも紹介する。
※講演は、少なくとも半分は写真等を用いて、ナッシュ問題の歴史などをわかりやすく説明するので、全く専門外の方にも楽しんでいただける内容にしたい。

石井志保子先生のプロフィール:東京都立大学大学院博士課程修了(1982年)で、現在、東京大学大学院数理科学研究科・教授。猿橋賞受賞(1995年)、日本数学会代数学賞受賞(2011年)。

どなたでも聴講できます。お気軽にご参加ください。

主催：H26年度首都大学東京理工学研究科・教育改革推進事業(数電機GP)

問い合わせ先:

担当：倉田和浩（内線：3141）

E-mail: kurata@tmu.ac.jp